

第607回

## I B C番組審議会 議事録

— 議 題 —

「いのち。伝えたい

～脳卒中から命を守るために」

平成28年2月17日（水）

(株) I B C 岩手放送

## 第607回IBC番組審議会

1. 開催日程 平成28年2月17日(水) 午前11時

2. 開催場所 IBCデジタルセンター3階Dホール

3. 委員の出席 委員総数 10名

出席委員 8名

出席委員の氏名

委員長 田代 高章

副委員長 熊谷 志衣子

委員 村井 康典 小松 務

佐藤 善通 宮 順子

龍澤 尚孝 澤口 たまみ

欠席委員の氏名 岩田 圭司 畠山 俊彰

会社側の出席

鎌田 英樹 代表取締役社長

川上 隆 常務取締役営業本部長

神 初見 取締役放送本部長報道局長

若槻 修 報道部長

奥村 奈穂美 報道部ディレクター

事務局

相原 優一 番組審議会事務局長

4. 議題 「いのち。伝えたい ～ 脳卒中から命を守るために」

## 5. 議事の概要

### <委員の主な発言>

- 全国放送で健康に関する番組が多い中、地域性が感じられるいい番組だった。  
実際の脳卒中体験者の様子、医師の専門的な解説、予防の取り組みや地域での実践、そして一番大変なりハビリの現場までという番組構成も良かった。
- 脳卒中に対する岩手での取り組みの経緯やその内容、病気の基礎知識が良くわかった。死亡率が高い理由が、食生活だけでなく、救急車が到着する時間、岩手の地理的な広さによるとの話は、目から鱗だった。
- 救急車が到着するのが遅いから亡くなる方が多いという話が出たが、ではどうすればいいのか、きちっとした答えがなかった。県としての予算や救急車の台数等もあるのだろうが、その点での番組としての突っ込んだ意見、メッセージが出せていなかった。
- 脳卒中について理解を深める番組だった。ただ内容が盛りだくさんで、30分番組では足りなかった。訴えたいことが脳卒中の予防なのか救急医療をどう充実させるのか、それともなりハビリの大切さを訴えたいのか、ぼけたという印象。発症に至った理由などもあれば視聴者としてさらに共感できたのではないかな。
- 実際の体験者でなければわからない状況がよく伝わった。奥様の大変さがにじみ出るような場面もあったが、最終的には次への希望にもつながっていて「いのち。伝えたい」という番組の意図もよく伝わってきた。
- この番組を契機に、放送の社会貢献として、IBCが脳卒中を少しでも減らす運動、キャンペーンをしてほしい。県民の関心事でもあるので番組としても続編を期待したい。